エキセントリックリッパーをうまく使うポイント

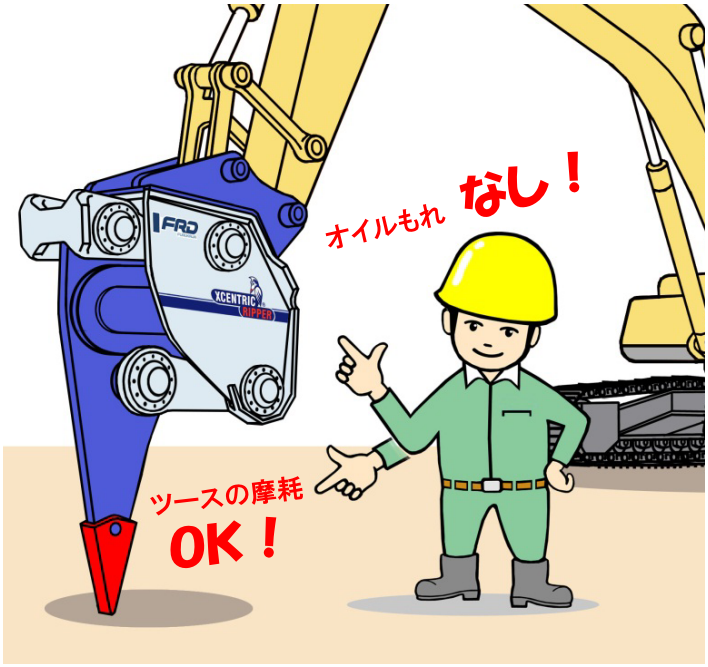
作業前（目視）点検を必ず行ないましょう。

エキセントリックリッパーは、偏芯ギヤを油圧モータで回し、発生する振動をアキュムレータで増幅、先端のツースのクサビ効果で掘削や解体を行う振動増幅式リッパーです。油圧ショベルのバケットと油圧ブレーカの中間的な作業に最適な破砕機です。

- 駆動部（ピボットアームのピン摺動部とギヤボックス）は密封構造となっていますので、毎日の給油は必要ありません。
- 打撃や摩耗を受ける個所がない単純な機構と主要部品を耐摩耗鋼で構成しているエキセントリックリッパーは、ツースの交換以外の、日常のメンテナンスは目視点検だけです。
  （定期点検は取扱説明書に従ってください）

作業開始前に、目視により不具合箇所がないことを確認します。

- 油圧ホース、油圧モータ、アーム駆動部などからのオイル漏れなど。
- ボルトの緩み、脱落した部品など。
- ハウジング、本体の亀裂など。
- ツースの摩耗状況を確認します。使用限度は取扱説明書で確認してください。
- 週に一回は、ロアーストップのスキマを確認してください。

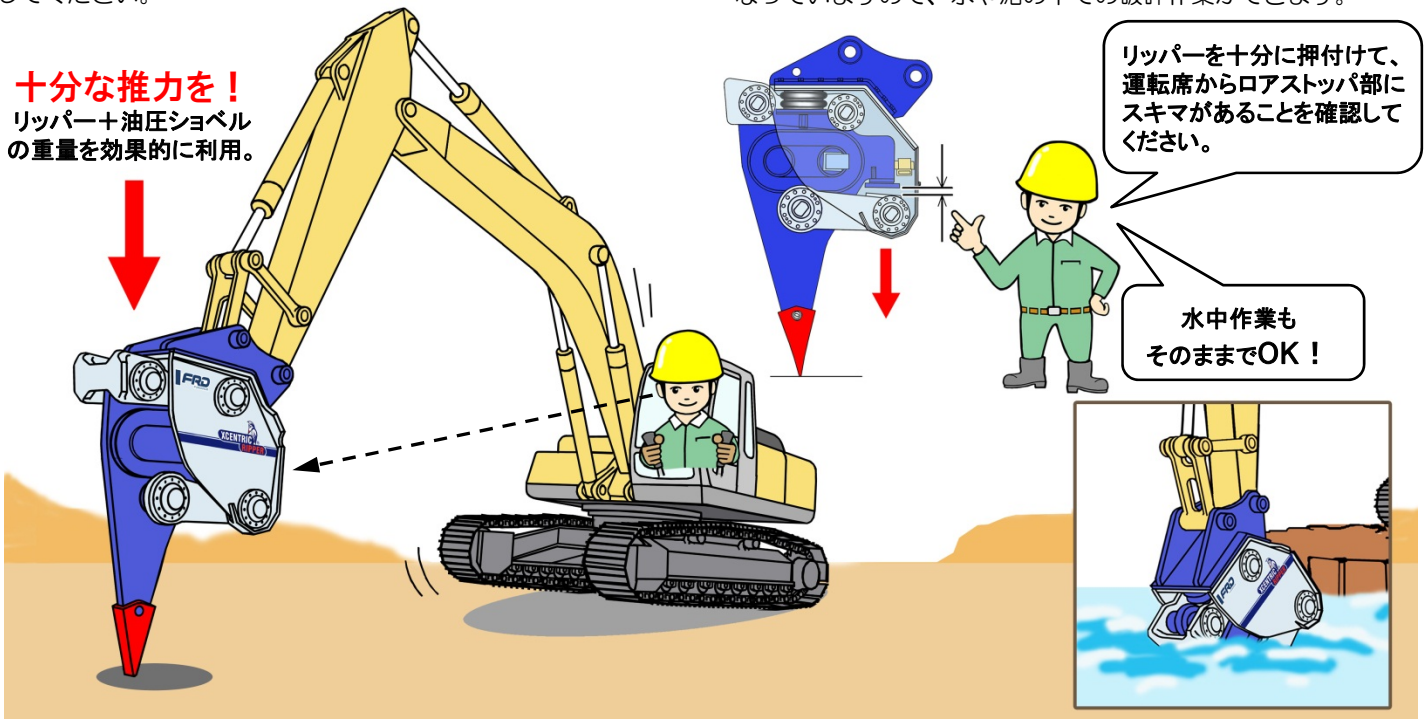


異常がある場合には使用を止めて、正常な状態にするか、指定代理店に連絡願います。異常が放置されたまま使用されると、重大な故障につながります。

エキセントリックリッパーの正しい使い方！

解体・破砕作業（打撃操作）を始めるときは、リッパーアームが縮むようにツースを対象物にしっかりと押付けた状態にします。そのとき、リッパーの重量を適正に対象物に与えていることを示すロアーストッパーのスキマで確認してください。リッパーに適正な推力を与えて打撃してください。また、掘削作業の際には、ツースのクサビ形状による割岩効果を意識して操作してください。

リッパーを地面から持ち上げたときや、推力がなくなったときは必ず打撃を止めてください。
かき寄せ作業等は、ブレーカ作業と違って効率的な掘削作業が行えますので生産性の向上につながりますが、打撃しながらのかき寄せ作業はツースの早期摩耗や折損の可能性があります。
また、エキセントリックリッパーの駆動部は、完全密閉構造となっていますので、水や泥の中での破砕作業ができます。



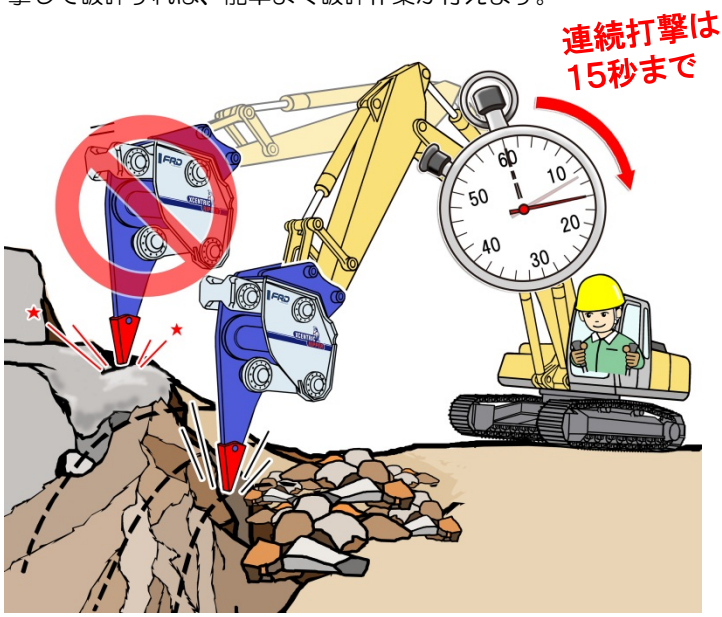
古河ロックドリル株式会社

エキセントリックリッパーの運転は、取扱説明書を読んで十分理解してからにしてください。

エキセントリックリッパーをうまく使うポイント

壊れないときは位置を変える！

破砕作業は石の層に沿って連続的に行います。また、15秒打撃しても壊れないときは速やかにツースを当てる位置を変えてください。同じ箇所を長時間打撃すると、ツースの異常摩耗の原因となります。固い岩盤などは石目や割れやすい端から順に打撃して破砕すれば、能率よく破砕作業が行えます。

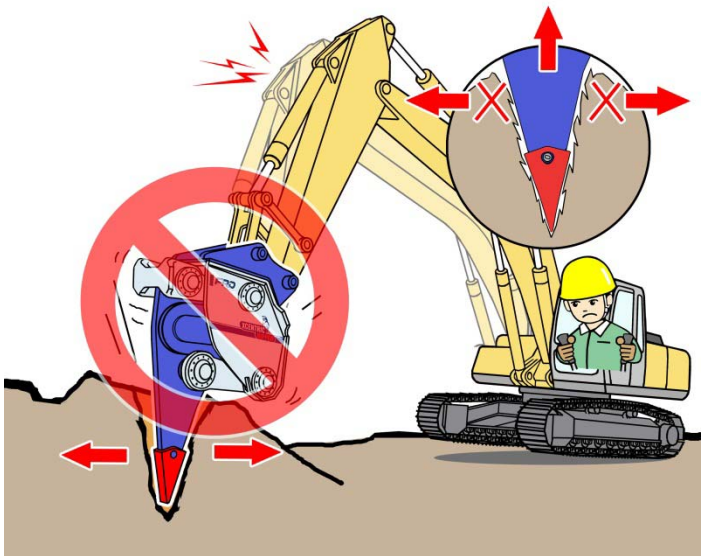


空打ち作業はダメ！

リッパーを地面から持ち上げたときや、推力がなくなったときは必ず打撃操作を止めてください。空打ち状態は、リッパー本体に過大な騒音と打撃振動を発生させるため、油圧ショベルのアームにその打撃反動が伝わり、リッパー本体と油圧ショベルに無理な力が掛かります。従って、小割作業やかき寄せながらの打撃操作は空打ち状態になりやすいため控えてください。

突き刺さったアームは抜く！

突き刺さって身動きが取れないアームを無理やりに油圧シリンダを操作してのこじり作業は、ツースが折損する原因となります。打撃操作を止め速やかにアームを垂直に抜出して、破砕位置を変えて作業を続けてください。



転倒防止とその他の注意！

エキセントリックリッパーは重量物です。リッパーの積込、輸送の際にはワイヤロープ等で必ず固定してください。固定していないと転倒の危険があります。油圧ショベルから取外したときや保管する際は、転倒防止のためリッパーの重量をしっかり支えられる平坦な場所を選んでください。
エキセントリックリッパーは強い振動を地面に与えます。意図しない落下物、地中配管の損傷などを発生させる恐れがありますので、ご使用場所の事前確認が必要です。
また、使用直後のツースは、高温になっていますので素手で触らないでください。高圧水での洗浄は、シールのめくれなどの恐れがありますので使用しないでください。

古河ロックドリル株式会社

エキセントリックリッパーの運転は、取扱説明書を読んで十分理解してからにしてください。

201402